



かじや通信

第52号

発行日：令和4年9月吉日

発行：かどや保存会

発行責任者：寺田 直喜／編集：廣野 克子

「言葉の結晶展」開催 若手書道家の感性光る

「小林勇輝 言葉の結晶展」たいよつのがめが「デる」と題した作品展が七月二十日から八月十七日まで開催された。

小林勇輝さん(瀬戸市在住)は、六歳から書を始め、二十五歳の時に墨で書いた自作の詩が、偶然「翼」のような形になったことから、詩と書と造形が一体化した「象詩書」を生み出し、創作活動を開始。国内はもとよりニューヨークやパリをはじめ欧州でも展示会を開催し、高い評価を得ている新進気鋭のアーティストだ。今回のテーマ「たいよつのがめが



「デる」は、鳥羽の海を見てひらめいたそう
で、「コロナ感染
拡大やロシア
のウクライナ
侵攻等で暗い
状況が続く昨
今、その閉塞

感を打破すべく、大洋から朝日がのぞくように、作品を見た人たちの気持ちがあわくわくと明るくなればとの思いを込めたそうだ。

今回は、かどやでの展示にあわせた新作と代表作約二十点を展示。「たいよつのがめがデる」は墨で描かれたものに加え、墨とアクリル絵具等で重ね書きし、伊勢和紙に印刷した鳥羽の風景写真を組み合わせた斬新な作品も披露された。見学に訪れたお客様たちは感性あふれる作品を前に「素晴らしい!」「いいものを見せてもらいました」等々、興奮気味に話してくれた。また、八月十四日からはライブパフォーマンスで制作した屏風等の大作も披露され、見学者を圧倒した。

《象詩書の優しい言葉たち》

「象詩書」に書かれている詩は、小林さんが紡ぎ出す優しい言葉で溢れている。この折鶴は「生キトシ生ケルモノガ幸セテ在リマスヨウニ」という文字で構成されており、伊勢志摩サミットで各国



首脳の配偶者をもてなす食事会で使われたカップ＆ソーサーのデザインに使われた。



カーネーションのようなこの花には「感じる」ことから始まる感謝まずは、あなたに出会えたことにある。ありがとう」と書かれている。

ほかに、心が柔らかくなるような言葉や、躍動感あふれるものなどが描かれた作品が展示された。

象詩書は、何が書かれているのか初めての人には解読が難しい。小林さんは、見学に来られたひとり一人に丁寧に解説しており、真摯なその姿は印象的だった。



ライブパフォーマンスは、本番の一発勝負だが、事前に何度も練習を重ねる。ライブでなくても、大形の作品は、一枚の完成品ができるまで、納得がいくまで何百枚も書き続けるという。

丁寧に読み方を解説する小林さん(中央)

可愛い動物 大集合！ 見ているだけで明るい気分

八月二十日から九月四日まで「LeBocotのCutreenaDays」と題したイラスト展が開催された。松阪市在住の「LeBocot」(レモンティー)こと森本厚志さんの作品展で、「ミニカルに描かれたウサギや猫、ペンギン、ブタ、牛、キリン等の動物や花々をシヨッキングピンクや黄色など鮮やかな色で描き、見ているだけで楽しくなる作品約四十点が並んだ。



作品は、イラストボード(水彩紙やケント紙のような様々な用紙の裏に厚紙をはりあわせたもの)や油絵用のキャンバスにアクリル絵の具を使い、動物や花だけでなく背景にも明るい色調で細かな線や点を描いており、A4サイズでも二日から三日、大きいものは一ヶ月を要するという。二十代は東京で少女漫画家を目指していたが、地元に戻ってから趣味



で描いた作品をSNSやツイッターにアップしたところ、カフールでかわい

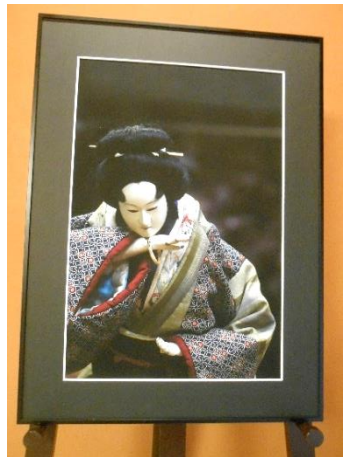
いと評判になり、名古屋や大阪で展示することもあった。

かどやに来られたお客様も最初は鮮やかな色に驚いたが、動物たちの表情の可愛さと、明るい色使いで、見ているだけで気分がハッと明るくなりました」と、楽しそうに話してくれた。

伝統芸能再発見！ 安乗文楽の魅力堪能

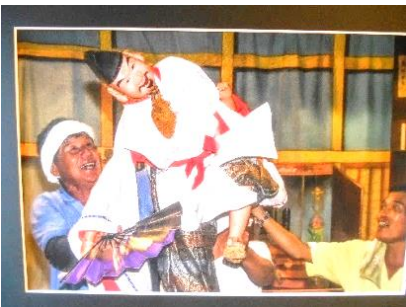
志摩市在住の泊正徳さんの「文楽×安乗の人形芝居の魅力」と題した写真展が九月七日から十六日まで開催された。

泊さんは約十年前から写真を始め、日本写真協会(PSJ)とNKKONプロフェッショナルサービス(NPS)の正会員として、安乗の人形芝居をはじめ、伊勢神宮の四季や志摩の海女、伊勢志摩の風



景、サーフィン、ス・ヘイン村のフラメンコダンス等、伊勢志摩地区にゆかりあるものを精力的に撮影し、SNS等に投稿して好評を博している。

今回は、昭和五十五年(1990)に重要無形民俗文化財に指定された「安乗の人形芝居」(安乗文楽)または「芝居とも呼ばれる」の稽古風景と本番の写真二十点を展示した。愁いを含んだ女性やひょうきんな舞を舞う男性など、人形とは思えない豊かな表情をとらえた写真は圧巻だ。また練習時の人形遣いの表情も生き生きとしており、臨場感が伝わってくる。



見学者からは「迫力あるええ表情やなあ。実際の芝居を見てみたい」と等の声が聞こえてきた。

安乗の人形芝居とは

文禄元年(1592)に初代鳥羽藩主・九鬼嘉隆が豊臣秀吉の命により文禄の役(朝鮮出兵)に加わるため、鳥羽から出航したが、安乗沖で風向きが変わり船が止まりました。そこで、八幡神社(現安乗神社)に参拝し、戦勝を祈願したところ、無事出航出来、戦地では武功も立った。帰国し、嘉隆がお礼参りに訪れた時、村人達が手踊りや芸能でもてなしてくれた。その時の芸能が、幾多の変遷を経て「安乗の人形芝居」として、現在まで伝承されてきた。

大正末期の不況や戦争によって一時中断したが、昭和二十六年(1951)に村民たちの願いと協力により復活した長い歴史を持つ伝統芸能なのである。

かつては、神社の祭祀に合わせ九月十五日と十六日に演じられていたが、昨今は週末に行われるようになった。「コロナ禍の今年は、感染対策を考慮し九月十日のみ、演じられた。

万葉人との出会いにワクワク
野の花の魅力も再発見
〜野の花と万葉の会

令和元年(2019)六月に始まった
かじや文学講座「野の花と万葉の
会」は、「コロナ禍」で何度も中断を余儀
なくされたが、今年七月で二十五回
を迎えた人気の長寿講座だ。

同会の発足は、年号が平成から令
和に替わり、「令和」が万葉集から引
用されたことで、万葉集への関心が
高まっていた時期だった。

講師は、卒業論文
に万葉集を選んだか
どや屈指の文学通の
カコさんが引き受け
たくれた。同会では、

上流階級の人々から庶民まで、様々
な目線で表現された歌を取り上げて
いるのはもちろん、万葉集に詠まれ
ている野の花にも注目して紹介して
いる。また、テーマに沿った野の花の
活け花も大好評だ。

活け花は、まゆみ塾でお馴染みの
山村御流・教授の資格を持つ「マユミ
さん」だ。毎回、花屋の花だけではな
く、田舎の野山を駆け巡って野の花を



↑万葉集の解説付き全集

花展にも出品した「沙羅双樹(夏椿)と美白百合



調達して
きてくれ
る。山村
御流は

「花は野にあるように」を信条とし
ており、雑草ともいわれる野の花が、
マユミさんの手にかかると可憐で気
品ある姿になり、毎回参加者のため
息を誘っている。

《多彩な切り口が魅力》

同会はいままで、様々な切り口で
「万葉集」を取り上げてきた。「万葉
集」第一の歌人ともいわれている柿
本人麻呂や「万葉集」初期の代表的
女流歌人・額田王など宮中の人々の
歌をはじめ、東歌(あづまうた)と呼ば
れる東国(現在の静岡県から東の国々)
の民衆が詠んだもの、桜や橘、姫百
合などの植物、自然現象の雲や雨、
天の川等々を詠んだ歌も時代背景
を交えながら解説してくれる。

第二十五回目には「琉歌のゆっか
と万葉集〜重なり合う心」と題し、
沖縄諸島で太古の昔から歌い継がれ
てきた歌で、十五、六世紀に編纂され
た「琉歌」を取り上げた。「琉歌」には
遠く離れていても相思つ心の切なさ
や、花に託した親への思い、夜明けの

美しさ等、万葉集にも詠われている
ものと比較し、歴史や風土の違いを
超えて共通する人の心の普遍性を紹
介。「この着目点の斬新さが、更なる感
動をよんだ。

《別世界への楽しい旅》

二十五回目を迎えるにあたり、
参加者の皆さんに参加の目的や当
会の魅力などを伺った。

「花が好きで、園芸が趣味。万葉人の
世界にも関心がありました。野の花
の昔の呼び名とか、万葉人はその花
をどう思っていたか、当時の風景な
ど、広く学べるのが魅力です。」

「以前から万葉集に関心がありまし
た。テーマに沿って教えてもらえら
すので、今まで知らなかったたくさん
の歌に触れられます。」

「白」一度でも万葉の事物に触れ、野
にあるように活けられた花を見るこ
とができるのがうれしい。」

「野の花の優しさ、美しさを改めて知
り、その花の一輪が似合う花瓶に挿
して楽しんでいきます。」

「詠まれた歌の場所を地図で見なが
ら、解説してもらった回があり、その
歌がより身近に感じられました。こ
れまでに習った歌も、地図で確認し
ようと思っています。」

夢の続き

「野の花と万葉の会」の案内人(＝講
師)カコさんの情報量はすさまじい。会
場には毎回、万葉集全4500首と解
説等が収められた分厚い全集四巻と
諸々の資料を抱えて、よっくらせつや
ついで。月一回のこの日のため、空
き時間を見つけては下調べや資料作り
に日々奮闘しているに違いない。

「資料作りは大変やる？」と尋ねる
と、「でも、すごく楽しい」との返事。と
言つのも、高校時代、古典の時間に万
葉集に出会って以来、その魅力に取り
つかれ、大学時代は万葉集漬けの日々
だったそうだ。

その後ウン十年を経て、再び大好き
な万葉集に向き合う機会を得たこと
で、学生時代の情熱が蘇ってきたのだ
ろう。魅力的な切り口も学生時代から
積み重ねてきた研究の賜物だ。そんな
若き日の夢に、今も果敢に挑戦してい
るカコさんは、いつまでも。

同時に、参加者の皆さんも以前から
万葉集に強い興味を持っていた人ばか
り。万葉の心を伝える側と、目を輝か
せながら、その解説に熱心に耳を傾け
る側。この会は、立場の違いはあるもの
の、夢の続きを追っている素敵な仲間
たちの集まりだよねー。

泊さんに写真の心を学ぶ

第八十四回かどや塾「泊さんのスマホ写真教室」が九月十一日に開催され、フェイスブックに写真を掲載している人やスマートフォンで上手に写真を撮りたい人たちが参加した。当紙二ページで紹介している泊さんは、連日フェイスブックに伊勢志摩の魅力ある風景等を掲載しており、ファンが多い。参加者は、その秘訣を知ろうと、熱心に耳を傾けた。



苦心した点を紹介する泊さん（写真右）

まず、スマートフォンの写真機能を紹介した後、風景、人物、動物、料理と、対象を分けてその留意点を解説した。その後、泊さんの写真展示会場に移動し、展示されている写真の狙いや、影の使い方、人形の配置等で配慮した点などを、細かく説明。参加者からは「コツを紹介していただき、参考にになりました。写真の解説では、撮影の奥深さも知ることができて、勉強になりました」のコメントが寄せられた。

竹あかりコンサートのお知らせ 絵本の読み聞かせもお楽しみ

今年も鳥羽なかまち会が地域活性化のために実施している「なかまち竹あかりマーケット」が十月二十二日に開催される。かどやもマーケットに併せて「竹あかりコンサート」を午後四時半から六時五十分まで実施する予定だ。

第一部は、かどやに隣りのあるグループの成果発表、第二部はライブハウスでも活躍している宮ちゃん和愉快な仲間たち（サクセス宮崎義明、キーボード伊藤君代、ベース櫻井理、ボーカルリカ）が出演する。

第一部は、フォークのかどやゼンザース、小唄教室つくしんぼ、オカリナ教室タコジと従順な生徒たち、ボランティアスタッフ・マーちゃんによるオルガン演奏が行われる。

さらにグループ入れ替え時間には、かどやが文化の一環として推進している「絵本の読み聞かせ」も予定しているので、乞うご期待。

なお、今回の会場は館内のため、雨天決行。第二部のみ協力金三百円。

貸部屋の案内

かどやを有効に活用していただくため、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご利用ください。

詳細は、かどやへ。

電話〇五九九―二五八六八六

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,100円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

かどや保存会 令和4年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

ピーク時の平成30年度は会員数が351名でしたが、残念ながら以後年々減少しています。しかし、コロナ禍にも関わらず、令和4年度は9月15日現在で249名の方から新規や継続のお申込みをいただきました。皆様からのご支援を心より感謝いたします。コロナの収束にはまだ時間がかかるものと思われませんが、感染防止対策を強化しつつ、皆様の憩いの場所となるよう、これからも日々努力を重ねてまいります。手続きがまだの方も引き続きご支援いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和4年度(令和4年4月1日～令和5年3月31日)の年会費(1口2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入してください。

(1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。

(2)銀行振込：郵便局 当座 かどや保存会 00850-4-151751